

## 缶固形ショートニング取り付けオプションの説明

1. フライヤーの右扉を開け、油槽キャビネットの留め具を外します。
2. 図1に示すよう、溶解ユニットをキャビネットの前に置きます。
3. 図2に示すように溶解ユニットをキャビネットの中にスライドさせ、ピックアップアセンブリが加熱ユニットの前に来るようにします。
4. ナットを締める前にヒータープレートの4個のスタッドが完全にすべての穴を通っている事を確認します。注意深くその4個のスタッドの上にメスのピックアップチューブを配置します。
5. 図3に示すように、同梱の4つのナットと7/16インチソケットを使用してメス型ピックアップアセンブリを接続します。
6. 図4に示すように、同梱の6つのPhillipsプラスねじを使用して、既存の穴を使用して溶解ユニットを内部両側のレールの下に取り付けます。
7. 図5に示すように、FIBボックスの右からメス型2ピン接続部を見つけ、オス型2ピン接続部を溶解ユニットの後ろから見つけます。
8. 図6に示すように、溶解ユニットの後ろにあるオス型2ピン接続部を取り付けます。
9. ハーネスの損傷を防ぐために、ハーネスをヒーターの裏側のストラップへ配置します。
10. 溶解ユニットの蓋を一斗缶の上に置き、油ピックアップ管のニップルをキャビネットの奥にあるメス型サクシジョンレセプタクルにスライドさせます。図7を参照してください。
11. 溶解ユニットの正面を上げ、閉じます。図8を参照してください。
12. 溶解ユニットの電源スイッチがONの位置にあることを確認します。図8を参照してください。



図1: 溶解ユニットをキャビネットの前に置きます。



図2: 溶解ユニットをキャビネットの中にスライドさせます。



図3: サクシジョンアセンブリを溶解ユニットに取り付けます。



図6: コネクタを接続します。



図4: 6個のPhillipsプラスねじを使用して溶解ユニットをレールに取り付けます。



図5: 2ピンコネクタを見つけてます。



図7: 一斗缶を上向きに置き、キャビネットの奥にあるメス型サクシジョンアセンブリにスライドさせます。



図8: 組み立てられた溶解ユニットの配置を示します。

# 一斗缶固形ショートニング溶解ユニットの使用

1. ショートニング溶解ユニットがオンであるか確認します(図1を参照)。
2. 正面カバーを上スライドさせてから下に外します(図2を参照)。
3. 空の一斗缶がある場合はフライヤーから引き出します(図3を参照)。
4. サクシヨンリッドアセンブリを上上げて外し、洗浄、すすぎ、消毒を行います(図4を参照)。ペーパータオルで水分を拭き取ります。
5. 空の一斗缶を取り出します。缶を交換するたび、または最低でも週1回はペーパータオルとKAY強力脱脂洗剤を使用して保持トレイを洗浄します。
6. 新しい一斗缶の蓋を外し、サクシヨンリッドをショートニングの中に入れます(図5を参照)。
7. 容器をフライヤーに戻します(図6を参照)。
8. ステップ2で下に下げた正面カバーを元に戻します。
9. 固形ショートニングが溶解するまで待ちます。溶解ユニットのショートニングが液体になる前にフライヤーが油の補充を必要とする場合は油槽の油量不足インジケータが点灯します。
10. ショートニングが完全に溶解したら、オレンジ色のリセットボタンを押してインジケータをオフにし、油補給システムをリセットします。
11. 最適な結果を得るために、固形ショートニング溶解スイッチを一晩中オフにしないでください。

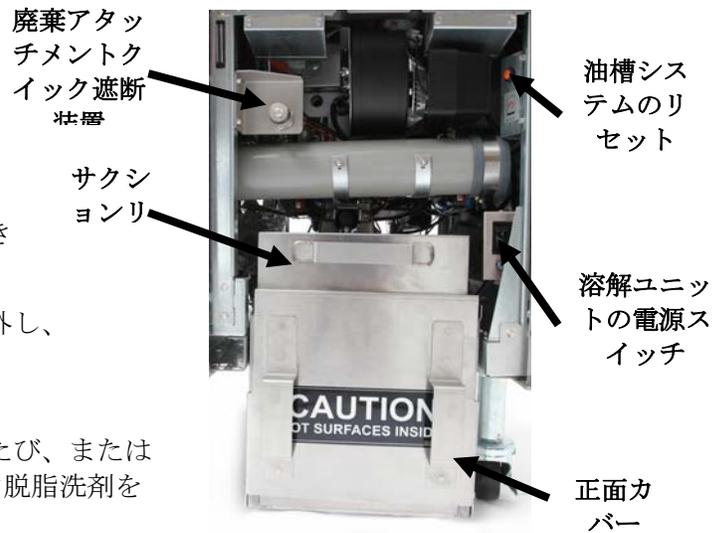


図1



図2



図3

12. システムのハイリミット温度に達した場合、溶解ユニットの電源スイッチもリセットスイッチとして使用します。



図4



図5



図6

**警告**  
 固形ショートニングヒーターの表面が熱くなっています。  
 ショートニングを交換する際は保護服を着用してください。

素手で触らないでください。